

「編さん事業の報告
ご協力ありがとうございました」

昭和六一年から続いてきた町史編さん事業は、平成一年四月から担当者の退職や病気のため中断状態になりました。町史発刊がやぶまれるなか、平成一年一〇月一日、編集長の委嘱を受けました。課題は、「通史編」のほか、「別巻 自由民権編」の発刊がありました。しかも、新潟市との合併が急進展し、発刊の時期も二か月早まり、一月一日、「黒崎百年を祝う会」の日までという要請でした。提出された原稿が未調整のまま、しかも、未提出の原稿もあるなかでの厳しい仕事になりました。さっそく新しい体制をつくり、校閲者には、甘粕健、本間伸一、高津斌彰各先生をお願いし、表記・表現面では、小林妙子先生を委嘱しました。事務

局は、内山助男、戸田マサ子のほか、五百川清、真水淳、相沢央の五名で構成し、平成二二年度には、中野正道が加わりました。具体的経過報告については、「通史編」「自由民権編」のあとがきにゆずり、ここでは、町民の皆さまの町史事業への参加について心がけたことについて記すことにします。町史編さん委員会のご審議とご提言をもとに、情報公開と町民との交流・対話を重視することになりました。

そのために、「広報くろさき」紙上での連載記事の掲載、町教委主催の「町民大学・歴史講座」への協力参加をおこないました。特に講座では、黒崎中学校のご賛同により中学生と一般町

民合同の授業というユニークな企画を実現することができました。また、町教委は「山際七司展」を企画実施され、町史研究の成果を活かしていただきました。

多くの町民、中学生から親しんでいただくためにマルチスライド「黒崎百年」を制作し、上映しました。閉町式典でも上映することになっていきます。

歴史は過去と現在との対話であり、近未来を考えるために必要なものです。黒崎のこれからを考えていくうえで「黒崎町史」の発刊は、重要な意義を持っているといえます。

このたびの「黒崎町史」は、黒崎の歴史研究の出発点をつくったものです。沼垂や内野には、郷土史研究の会があります。黒崎にも郷土史の研究を志す会が結成され、黒崎の歴史の再発

見と再評価がおこなわれることをねがっています。

一年間、町民の皆さんからご協力いただき、おかげさまで町史編さん事業は完了することができました。ありがとうございました。

黒崎町史編集長 五百川清
小冊子「黒崎百年―村をおこし町をつくった人々のあゆみ」の発刊について
一月一日の「黒崎誕生百年を祝う会」において上映しましたマルチスライド「黒崎百年」は、多くの黒崎中学生、一般町民の方々からみていただきご好評を得ました。このたびの小冊子は主としてマルチスライドの構成と映像を活用し、写真、地図、グラフなどを中心として〈図説 黒崎百年〉といった内容にしました。〈百年〉といっても、黒崎の古代、中世、近世の歴史にもふれ、明治以降のいわば黒崎の近現代史を中学生を対象として書くことにしました。主な項目は、マルチスライド(前号で紹介しました)とほぼ同じく次のとおりです。

「黒崎町史」の普及・要約版として写真や地図などの資料を

- ・ 基に黒崎の歴史を考えていただければ幸いです。
- ・ 黒崎の位置と自然
- ・ 黒崎のあけぼの―緒立遺跡
- ・ 中世の黒崎―木場城の出現
- ・ 近世の黒崎―村と町の成長
- ・ 近代の黒崎―六つの挑戦
- ・ 治水へのみち
- ・ 自由民権運動
- ・ 自治の伝統
- ・ 危機の克服
- ・ 産業をおこす
- ・ 教育立村
- ・ 戦争と黒崎
- ・ 現代の黒崎―田園都市創造
- ・ 民主改革
- ・ 新しい村政
- ・ 町制施行と福祉
- ・ 高度経済成長による変貌
- ・ 新潟市合併へのみち

合併後の町史販売は合併後―平成一三年以降
 当分の間、「黒崎町史」の販売窓口は、現在の町史編さん係(合併後は新潟市歴史文化課分室になる予定)で販売します。なお、新潟市役所(第二分館)歴史文化課でも販売します。

がんばっています 生涯学習

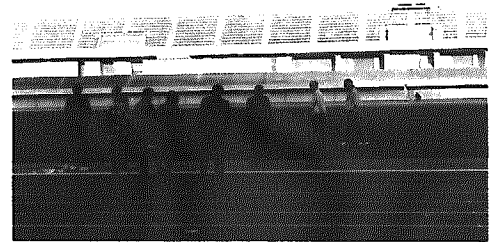
隣県スポーツ振興状況と黒崎地区における これからの生涯スポーツの振興

黒崎町体育協会会長 渡辺 寛

黒崎町体育協会として最後の視察研修旅行を行った。視察研修地の候補はたくさんあったのですが、今年国民体育大会が開かれた富山県のスポーツ事情の見聞に何うことに決まりました。

ことなのです。魚津市の場合、丘陵地の高台に野球場・多目的広場・テニス・第3種陸上競技場と公園施設と完備された施設が立ち並

はじめに、魚津市の桃山総合運動公園に寄って説明を聞きました。人口規模は5万人ほどで、主な産業は漁業・農業であるというものでした。では、どうして今運動公園視察なのか、と言われると、新潟市に合併計画が進展しているなかで、一番懸念されているのが建設計画の中で「みどり森の運動公園」が、いつ、どこで、どのような形で進展しているかが見えていない



び、市街地を見渡せる絶景の場所であった。市街から遠く徒歩では行けない距離であり、マイカーの家族連れを想定してのことと思われました。

魚津市の体協の活動は、市の未来を見据えて、スポーツ少年団活動に重点を置いてあるようでありました。現在、41団947人が登録してあり、行政と体協のもとに活発な活動をしているとの説明を受けました。市の将来は「人材育成から」と力を入れていくことが感じられました。

つぎに訪問したのは、県都富山市でした。国体を想定して建設されたという富山市総合体育館を訪れた。地下1階、地上3階建て、全館冷暖房完備。国体会場は、体操競技で紹介された施設である。全体では、17・3ヘクタールの敷地に12・7ヘクタールの施設が建設されています。

近代的な設備が随所に見られ効率的に工夫されたシンプルな建築であると感じました。特色としては、ひびに優しい布製クロス300メートルのランニング走路やボクシング室、スポーツ情報サロン、研修室、報



道室などなどでした。施設の一室では、富山市体育協会の部屋があり情報発信基地の役割を果たしているということでありました。

富山市全体の健康・体力づくり施設は、総体だけでなく、県国際健康プラザ・県健康増進センター・県総合運動公園・県空港スポーツ緑地・県総合体育センターなどの施設が空港を囲むように設置されているのが特徴といえる。その会場で国体の開閉式式が行われました。このように、近隣の市町村の競技力向上や健康体力づくりは、お互い切磋琢磨して自助努力をしながら奮起していると感じてきた

とところです。それは、その地区の一人ひとりの意識の高揚にあるのではないかと思います。施設の是非や設備の是非も大切な事と思いますが、それらを補いながら「何をしたらよいか」をお互いに考え、身近なところから問題解決に勤め、和を保ち、更に前に進んでいかなければならないのでしよう。

生涯学習、生涯スポーツをすることは、だれにでも与えられた権利であります。技術の向上に至った人は、生涯学習、ボランティア活動に方向を向けられ、次の人材育成に貢献していただく活動の機会を増やしていただけることでしょう。黒崎町は、二千年と同時に新潟市に編入合併されますが、私たち黒崎町民はいつまでも誇りと信念をもって地区の発展に努めていきたいと念じております。これからも黒崎地区体育協会として皆々様からご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。